

目次

LEVEL-1 レッスン資料目次

STEP-1：語順・現在形・過去形・未来形

語順さえ分かれば難しくない！	P. 2
過去形	P. 4
未来形	P. 5
DAILY USED PHRASES（参考資料）	P. 7

STEP-2：三単現のS・Be動詞・前置詞

三単現のS	P. 9
Be動詞	P. 10
前置詞について	P. 13

STEP-3：助動詞・接続詞

助動詞って何？どんな時に使うの？	P. 18
接続詞について	P. 23

STEP-4：否定文・疑問文を作る - その1

否定文を作る	P. 26
疑問文を作る - その1	P. 27
疑問文を作る - その2	P. 29

STEP-5：現在分詞・過去分詞

現在分詞と過去分詞を使いこなす	P. 33
-----------------	-------

STEP-6：関係代名詞・現在完了

関係代名詞を理解する	P. 37
現在完了を理解する	P. 39
[LEVEL-1] まとめ	P. 40

STEP-1 語順と過去形・未来形

語順さえわかれば英会話は難しくない！

まずは語順について説明します

英文は、文章を創るというよりも『単語を並べる』とイメージしてください。

日本語のように様々な言い方があるのではなく、英語はある一定のシンプルなルールに基づいて単語が並んでいるだけです。このシンプルなルールが基本文型あるいは文法と呼ばれるものです。中学校の英語の教科書にはこの基本文型、SV/SVO/SVOC などが登場したと思います。しかし、ここではその勉強はしません。もっと感覚的に語順『単語の並べ方』を理解していきましょう。

下の表をみてください。これは基本的な文章の語順を表しています。左から順番に、『誰が』・『～する』・『～を』あるいは『～へ』そして最後に、「いつ」とか、「誰に」、あるいは「どのように」などの補足説明を加えます。英語は大事な情報から並べていきます。

主語（誰）	動詞（行動や動作を表す）	行動の目的や内容	さらに説明や補う言葉
～は ～が	～する	～を ～へ	いつ・どこで どのように ～するために
I	study	English	every day
He	wrote	a letter	to his mother
I	ran	to the station	this morning

例えば、一番上段の“I study English every day.”では、普段喋るように意味を述べると「私は毎日英語を勉強しています。」となります。一方この英文の語順をそのままに和訳すると『私は・勉強します・英語を・毎日』のようになります。この語順の違いが多くの初級者の方々を混乱させているのです。

STEP-1

次に中段の “He wrote a letter to his mother.” (彼は母親に手紙を書きました。) は、
「彼は・書きました・手紙を・母に」の語順になっています。

同様に下段の “I ran to the station this morning” は「私は・走った・駅に・今朝」の語順です。

なお、上段の文は現在形でいつも習慣としている行動について話す時の時制ですが中段と下段は過去のことについて語っている過去形の文章です。

この過去形については後で説明しますのでここでは無視してとりあえず語順にのみ集中してください。

まとめとして・・・つまり日本語で思いついたことを英語で伝えようとする時は、はじめに日本語の段階で英語の語順にしておくことをお勧めします。例えば、映画の話をしていて「その映画好き！」と言いたくなったらいきなり “the movie …” を口にするのではなく「私は・好き・その映画が」と語順を整えてから、“I like the movie.” と発声するわけです。もちろん、『私』は I、『好き』は like、『その映画』は the movie のように単語を知っておくことは前提として必要ですので語彙は増やしてください。最初はまわりくどくて面倒に感じるでしょうがこの練習を繰り返す事で、最終的には「日本語の段階で英語の語順にしておく」のプロセスが自然に省略されていきます。

最後にもう一度、最も大切なことは主語を必ず先頭に持ってくること、そして、次が動詞です。日本語では主語が非常に曖昧で省略されることがよくありますが英語では主語が必ず先頭にきます。

それでは、添付の『日常の行動語集』を使ってできるだけ多くの文章を作ってみましょう。そして、そのついでに簡単な言い回しや付随して出てくる単語なども覚えていきましょう。例えば、「私は毎朝、6時に起床します。」、「私は毎日、3回歯を磨きます。」
「私は12月25日に結婚しました。」をやってみましょう。

➤ 「私は毎朝、6時に起床します」の場合、日本語を英語の語順にしてみると

『私は』『起床します』『6時に』『毎朝』 英語にすると

I get up at six every morning. となります。

Tips: 時刻の前には必ず at をおきます。

STEP-1

➤ 「私は毎日3回歯を磨きます」は同様に、I brush my teeth three times every day.

Tips：1回はonce、2回はtwice、3回以降はthree times, four times …

➤ 「私は12月25日に結婚しました。」は、I got married on December twenty five.

Tips：日付や曜日の前にはonをおきます。

次に、過去形と未来形について説明します。

日本語でも英語でも、いつも習慣として行っている事と過去や未来の事を話す時は、少しだけ言い方が違います。

例えば、先ほど説明したように『私は毎朝6時に起床します。』は習慣として行っている事なので現在形で、"I get up at six every morning."と言いますが、『私は、昨日は9時に起床しました。』は、過去の事なので英語でも過去形で言います。同じように、『私は、明日は5時に起きます。』は未来の事なので未来形で話します。

過去形

過去の出来事や行動について話す時は、動詞を過去形に変更します。

例えば、下記の2セットの例文を参照し現在形と過去形を比較してみてください。

- 現在形：I get up at 6 every morning. (私は毎朝6時に起きます。)
- 過去形：I got up at 9 yesterday. (私は昨日9時に起きました。)
- 現在形：I wash my clothes every day. (私は毎日自分の服を洗濯します。)
- 過去形：I washed my clothes yesterday. (私は昨日自分の服を洗濯しました。)

*動詞の過去形を覚える事も重要です。

それでは、過去形の英作文を練習してみましょう。

➤ 「私は昨日、部屋を掃除しました」は、I cleaned my room yesterday.

(cleanの過去形はcleaned)

➤ 「私は、昨日は赤い靴を履きました」は、I put on red shoes yesterday.

(putの過去形はput)

STEP-1

動詞の過去形は単語を覚えるのと同じように覚えられないといけません。過去形への変化パターンは主に下記の3つがあります。

- 1) clean-cleaned, wash-washed, work-worked のように現在形(原形)にedを付加する。
- 2) go-went, write-wrote, break-broke のように現在形(原形)そのものが変わってしまう。
- 3) put-put, hit-hit, cut-cut, のように現在形(原形)と同じ。

未来形

今後の予定や行動について話すときは動詞の前にwillを挿入します。

例えば、下記の2セットの例文を参照し現在形と未来形を比較してください。

- 現在形 : I get up at six every morning. (私は毎朝6時に起きます。)
- 未来形 : I will get up at 7:30 tomorrow. (私は、明日は7時半に起きます。)

Tips: 7:30は数字を続けて読んで、seven thirty と発音してください。

- 現在形 : I study English in the U.S.A. (私はアメリカで英語を勉強しています。)
- 未来形 : I will study English in the U.S.A. (私はアメリカで英語を勉強します。)

それでは、未来形の英作文を練習してみましょう。

➤ 「私は来月ハワイに行きます」は、 I will go to Hawaii next month.

Tips: 来月はnext month、先月はlast month (最後の月だから)

➤ 「来週の金曜日にパーティーを開きます」は、

We will have a party on Friday next week.

Tips: 主語を省略する典型的な日本文です。例えば職場で「来週の金曜日にパーティーを開きます」と開催を呼びかける時に、日本語では、「私達は・・・」なんて言い方はしませんよね。でも英語ではWe will have ... と必ず主語をつけます。

STEP-1

このSTEP -1では、まず英語の語順を理解し、会話に素早く対応できるように現在形、過去形、未来形の単文作りを行いました。4回のスカイプレッスンでもこの事を繰り返し口に出して練習していきます。スカイプレッスン用の資料には事前に目を通し、準備して臨んでください。それでは頑張ってください。

最後に・・・皆様、英語学習（英語だけではないと思いますが・・・）は90%以上は自分でやるもの、そして楽器やスポーツのように実践練習を数多くすればするほど上達するものだと思います。

補足資料として、日常の行動を表す英語表現86個を次の7～8ページにまとめました。これを使って『私はいつもは（通常は）～～～しています。』、『昨日は～～～しました。』、『明日は～～～するつもりです。』などの文章を作ってしゃべる練習をして下さい。

<STEP-1は以上です。STEP-2は9ページから始まります。>

STEP-1

#	English	Japanese	Past Form (動詞の過去形)
1	get up	起きる	got
2	wake up	目覚める	woke
3	wash my face	顔を洗う	washed
4	brush my teeth	歯を磨く	brushed
5	brush my hair	髪をとく	brushed
6	have breakfast/lunch/supper	朝食/昼食/夕食を食べる	had
7	make up my face	化粧をする	made
8	get dressed	服を着る	got
9	put on my clothes	服を着る	put
10	put on my shoes	靴を履く	put
11	leave the house	家を出る	left
12	run to the station	駅まで走る	ran
13	catch the train	電車に乗る	caught
14	get on the bus	バスに乗る	got
15	get off the bus	バスから降りる	got
16	go to work	仕事に行く	went
17	go shopping	ショッピングに行く	went
18	go home	帰宅する	went
19	take off my clothes/shoes	服/靴を脱ぐ	took
20	turn/switch on the light/TV/radio	ライト/テレビ/ラジオをつける	turned/switched
21	turn/switch off the light/TV/radio	ライト/テレビ/ラジオを消す	turned/switched
22	take care of ~	～を処理する	took
23	take care of my baby	赤ちゃんの世話をする	took
24	cook supper/dinner	夕食を作る	cooked
25	set the table	テーブルセットをする	set
26	talk on the phone	電話でしゃべる	talked
27	make a (phone) call	電話をかける	made
28	take a phone call / answer the	電話にでる	took/answered
29	leave a message	メッセージを残す	left
30	take a bath	お風呂に入る	took
31	go to bed	寝る	went
32	miss the train	電車に乗り遅れる	missed
33	drive a car	車を運転する	drove
34	knock on the door	ドアをノックする	knocked
35	make a face	しかめっつらをする	made
36	feed the baby	赤ちゃんにご飯をあげる	fed
37	go to school	学校に行く	went
38	get to school late	学校に遅刻する	got
39	take a test	テスト(試験)を受ける	took
40	pass a test	テスト(試験)に合格する	passed
41	fail a test	テスト(試験)に落ちる	failed
42	do my homework	宿題をする	did

STEP-1

43	wash the clothes	服を洗う	washed
#	English	Japanese	Past Form (動詞の過去形)
44	take my clothes to the laundry	服をクリーニング屋さんにもっていく	took
45	clean my room	部屋を掃除する	cleaned
46	iron the clothes	服にアイロンをかける	ironed
47	watch TV	テレビをみる	watched
48	listen to the radio	ラジオをきく	listened
49	listen to music	音楽をきく	listened
50	read the newspaper	新聞を読む	*read [red]
51	have a date	デートをする	had
52	write e-mail	e-mailを書く	wrote
53	send/receive e-mail	e-mailを送る・受け取る	sent
54	go for a walk	散歩に行く	went
55	play the guitar	ギターを弾く	played
56	play golf	ゴルフをする	played
57	fly a kite	凧上げをする	flew
58	ride a bicycle	自転車に乗る	rode
59	draw a picture	絵をかく	drew
60	have a fight with ~	誰かと喧嘩をする	had
61	get married	結婚する	got
62	have a baby	子供が生まれる	had
63	take a picture/photo	写真をとる	took
64	get seasick/airsick/carsick	船酔い/飛行機酔い/車酔いする	got
65	go on a picnic/a business trip	ピクニックに行く/出張に行く	went
66	go abroad	海外に行く	went
67	catch a cold	カゼをひく	caught
68	bake a cake	ケーキを焼く	baked
69	go to the movies	映画に行く	went
70	visit a friend	友人を訪ねる	visited
71	go to the dentist	歯医者に行く	went
72	get a haircut	髪をカットしてもらう	got
73	have a party	パーティーをする	had
74	look for something	何かを探す	looked
75	have an accident	事故に遭う	had
76	get scolded by the teacher	先生に叱られる	got
77	wait for my friend	友人を待つ	waited
78	make a noise	物音をたてる	made
79	hold hands	手をつなぐ	held
80	fall down	転ぶ	fell
81	fall off a platform	プラットフォームから落ちる	fell
82	hurt myself	けがをする	hurt
83	take my temperature	熱を測る	took
84	have a flat tire	パンクする	had
85	have a fever	熱がでる	had
86	have a toothache	歯が痛む	had

STEP-2 三単現のS・be動詞・前置詞

三単現のS(エス)について

まず 三単現のS について説明します。

三単現のS とは、『三人称・単数・現在のS』の頭文字をとったもので、この三つの条件、三人称・単数・現在が揃った文章の動詞にはSをつけなければいけないというルールです。

まず、「三人称」について説明します。世の中の全ての名詞は一人称・二人称・三人称の三つのグループに分かれています。一人称とは、“I”あるいは“we”、二人称は、“you”、それ以外の名詞は全て三人称です。次に、「単数」とは、英文の主語が単数であり、「現在」とは英文が現在形であることを意味します。

この3つの条件が重なった文章の動詞にはSをつけるという単純なルールです。つまり、もっと簡単にまとめると、主語がI とyou以外の単数で、現在形の文章ならば動詞に“s”を付けるという単純なルールなのです。

例えば

- She often plays tennis with her friends. 彼女はよく友達とテニスをします。
- Ms. Jonson goes shopping everyday. ジョンソンさんは毎日ショッピングに行きます。
- My dog likes walking very much. 私の犬はとても散歩が好きです。
- His car runs very quietly. 彼の車はとても静かに走る。

上記の例文は、すべて主語がI とyou以外の単数で、現在形の文章ですので下線で示されるように“s”が付いています。どうですか？単純なルールですよ。でもよくつけ忘れてしまいますから気を付けましょう。

* もう一点、注意事項があります。それは、この“s”を付けることで綴りの最後が少し変化する動詞がある事です。上の例文では、“goes”がそうです。“go”に“s”がつくだけなのに、“gos”ではなく“goes”になります。

右のBOXにその変化の3パターンまとめましたのでご参照下さい。

特に“y”で終わる単語には注意が必要です。yの直前の文字が母音文字(a,i,u,e,o)の時は plays のように“s”がつくだけですが、それ以外の子音の文字がつく時は flies のように“y”をとって“ies”を付けます。

このパターンは複数形の“s”や、過去形の“ed”をつける時も同じです。

辞書等で確かめておかれることをお勧めします。

Sのつけ方3パターン

sのみ

- play + s = plays
- stop + s = stops

esを付ける

- go + s = goes
- wash + s = washes

yをとってiesをつける

- fly + s = flies
- study + s = studies

be動詞について

次に、be動詞について、その用途と使い方について説明します。

動詞には、一般動詞と be動詞の 2 種類があります。一般動詞とは『投げる』『笑う』『書く』など、動作を表す言葉で、STEP-1 で説明した例文に使われている動詞はすべて一般動詞です。一方、be動詞には下記に示すものしかありません。なお、原形(be)、過去分詞(been)、現在分詞(being)については後で説明しますので、ここではとりあえず無視して現在形と過去形に集中してください。



- ◇ “am” は、主語がI(私) の時にのみ使います。
- ◇ “is” は、I(私) と you(あなた) 以外の全ての単数の主語に使います。
- ◇ “are” は、you(あなた) と全ての複数の主語に使います。

次に、be動詞の用途と、使用法について説明します。be動詞を使うのは、基本的に下記

1) ～ 4)の4つの場合です。

1) be動詞を日本文の『です』として使う場合。 『XXはOOです。』など、物事の状態や、人・物の説明をする時の『です』に相当します。例えば・・・

- I am Ichiro Suzuki (私は 鈴木一郎です。)
- This flower is beautiful. (この花は綺麗です。)
- This is my hat. (これは私の帽子です。)

語順は、『XXは』『です』『OO』- となっています。一般動詞を使った文章の語順、『誰が』『する』『何を』の理論と同じで、『する』が『です』に変わっているだけです。

STEP-2

2) 『XXはOOにいます』や『XXがOOにあります』など、存在を伝える時。

この場合、be動詞は日本文の『います・あります』に相当します。

例えば・・・ “He is in the meeting room.” （彼はその会議室にいます。）

語順は、『XXは』『います』『OOに』となります。

次に、『XXがOOにあります』を表現する “There is … “ “There are … “ を紹介します。 ”There is” と “There are” で始まる文章を見たら「～があります」または「～がいます」の意味だと理解してください。したがって、その後には『何が』『どこに』の情報があるはずです。例えば、 “There is a book on my desk. “ （私の机の上には本が1冊あります。） では、There is の後に “a book” 「一冊の本」と “on the desk” 「机の上に」の情報が置かれていますね。（※ on the deskの前置詞onにも注目してください。前置詞の役割と使い方はこの後説明しますが、P.15の前置詞の表を参考にしてください。）

もし存在する物が複数だったら “There are” です。例えば、There are five people in the meeting. （その会議には5人が参加しています。） です。

少し長くなりましたが、この「存在を伝える時」のbe動詞の使い方をまとめると『XXはOOにいます』や『XXがOOにあります』には2種類の言い方があり、There is a book on the desk. は A book is on the desk. という事もできます。同じように、There are five people in the meeting. は、Five people are in the meeting. でも同じ事です。

3) 『～しています・～しているところです』など進行中の状況・状態を説明する、いわゆる現在進行形と過去進行形です。

例えば・・・

- Children are singing a song. （子供達は歌を歌っています。）
- I am driving on a highway now. （私は、現在、高速道路を運転中です。）
- They were working all day yesterday. （彼らは昨日一日中働いていました。）

上の例文を語順で表すと、『誰が』『している・していた』『何を』ですね。

『する』や『した』を『している・していた』のような進行形に変更するために、その動詞を「be動詞」＋「動詞(原形)+ing」に置き換えるわけです。（ちなみに、この「動詞(原形)+ing」を現在分詞と呼びます。）

過去進行形について少し説明を加えておきます。我々日本語ユーザーは無意識に過去形とこの過去進行形を上手に使い分けています。例えば、普通の過去形の「私は、昨日は部屋

STEP-2

の掃除をしました」と、過去進行形の「私は、昨日は部屋の掃除をしていました」を必要に応じて無意識に使い分けていませんか？

ですから、日本語で『～していました』と言いたい時は、過去進行形の英文で伝えてください。上記の場合は、I was cleaning my room yesterday. となります。

4) 『～されます・～されました』など、受け身形(受動態) で表現する時。

例えば・・・

- These are made in Japan. (これらは日本で作られています。)
- The letter was written in 1958. (その手紙は1958年に書かれました。)
- The boy was scolded by his mother. (その少年はお母さんに叱られた。)

中学校で習った受け身形(受動態) を覚えていらっしゃるでしょうか？自分が「～する」、あるいは「～した」のではなく、自分は誰かに「～される」、あるいは「～された」と表現する時の方法でしたね。

通常の文章の語順は『誰が』『する・した』『何を』でしたが、受け身形では『誰が』『される・された』『何を』になります。その違いは『する・した』を『される・された』に変更するだけです。

『される・された』の表現にする方法は、be動詞+動詞の過去分詞を、その文の主語『誰が(あるいは何が)』の次に置くだけです。

上の例文(1番上)で確認してみると・・・主語の“These”の次に、are + made (makeの過去分詞) が置かれていますね。これによって『これらは日本で作られている』の受け身の文章が完成します。

この機会に、一般動詞の変化形についてもその一例を見ておきましょう。次のページの表が示すように一般動詞にもbe動詞と同様に、原形・現在形・過去形があり、さらに動詞の働きはしない、過去分詞と現在分詞があります。上記の例文でご紹介した make (作る) も4段目に参考例として紹介しております。お気づきのように、一般動詞の場合、原形と現在形は常に同じです。

STEP-2

原形	現在形	過去形	* 過去分詞	* 現在分詞
go	go	went	gone	going
write	write	wrote	written	writing
break	break	broke	broken	breaking
make	make	made	made	making
drive	drive	drove	driven	driving
get	get	got	got/gotten	getting
hit	hit	hit	hit	hitting

しつこいようですが、過去分詞と現在分詞はそれ単体では動詞のはたらきはしません。

be動詞とセットで現在進行形の『～しています・していました』や受け身形の『～されています・されました』の意味を表します。

以上が、be動詞についてです。この調子で次も頑張りましょう！

前置詞について

前置詞について基本的な事を説明します。

前置詞とは読んで字の如く名詞の前に置く詞 (ことば) です。数え上げると90個くらいあるそうですがここではよく使う基本的な前置詞9個、at / in / on / to / for / from / of / with / by について説明します。まずは、その「役割」について説明します。一番わかりやすいと思いますので、日本語と対比させて説明しますが「おや？」と感じるところもあるかと思います。その時は「前置詞とはそういう感じのものなんだ・・・」と、とりあえず概ねの理解をしてください。それで会話するには十分だと思います。(テストで良い点を取るには不十分ですが・・・)

ここまで、英語は語順が大事、特に『誰が・する・何を』は絶対的な基本である - と説明してきました。しかし言いたいことをできるだけ全部、正確に伝えるためにはその3つの言葉だけでは足りません。その他の情報も付け加える必要があります。前置詞はその情報を付け加えるための接着剤の役割をする詞 (ことば) だと思ってください。

STEP-2

日本語の『～で』『～に』『～を』『～は』『～へ』『～が』『～から』『～と』『～によって』などの言葉がこれにあたります。しかし、『～は』『～が』にあたる前置詞は英文では必要ありません。また、『～を』も前置詞不要なケースが多いです。例えば、『私はボールを投げた。』は、“I threw a ball.” (threwは投げた・throwの過去形) この英文に『は』や『を』に相当する前置詞はありませんね。

一方、それ以外の『～で』『～に』『～から』『～と』『～によって』の言葉を含む会話を英語で伝える時にはそれに相当する前置詞が必要です。例えば・・・

『私は壁にボールを投げた』の英文、“I threw a ball to the wall.” では、『は』と『を』に相当する前置詞はありませんが、『に』に相当する前置詞として to が the wall の前に置かれています。もう1つ例文です・・・

『私は母から誕生日プレゼントを受け取りました』は、“I received a birthday gift from my mother.” 『～から』に相当する from が my mother に前に置かれています。このように、日本語の『～で』『～に』『～から』『～と』『～によって』などを英文で伝えようとする時は、状況に応じて各々に相当する前置詞が必要です。

※文法的にこれを説明すると、『他動詞に前置詞は必要ないが自動詞には必要』- となります。他動詞とは「例えば “make” や “give” など、意味が成立するには他のもの(目的語)を必要とする動詞」。一方、自動詞とは “run” や “stand” など、自分だけで意味が成り立つ動詞」。従って上述の “I threw a ball.” の場合、他動詞の “threw” の直後に前置詞なしで目的語の “a ball” がくるわけです。他動詞には「～を」の意味も含まれていると理解してください。ですからこの「～を」を意味する前置詞は不要になるわけです。(辞書で確認してみてください)

日本語で『～を』を伴う動詞はほとんどが他動詞なので、前置詞が要らないことが多いのはそのためです。文法的に理解しようとするとなかなか難しく考え過ぎるがあまり、かえって解りにくくなってしまい、嫌にもなってきますので今の時点では日本文で『～を』と言う時、例えば「ボールを投げる」「窓を開ける」「テレビを観る」などの場合は前置詞不要、ただし例外となる動詞もあるので要注意 - と理解してください。例外となる動詞は覚えていく必要があります。

STEP-2

次に主な前置詞の意味や使用方法を下記の表にまとめましたのでご参照ください。

前置詞	日本語 のイメージ	使用用途	例（フレーズ）	例文
at	～で	時点・場所	at the party at Narita airport	I met him at the party last year. He will arrive at Narita airport at 6pm tomorrow.
	～に	時刻 (時刻には必ずat)	at 6 am at noon	I get up at 6 am every day. I will finish the work at noon tomorrow.
in	～で ～に ～の中で	物理的空間内	in Japan in the office	I was born in Japan. He works in the office.
		時間的空間内部	in the morning in the year 2012	I felt sick in the morning today. I started this work in the year 2012.
		状況内部	in the trouble in the meeting	We lost many things in the trouble. She had a great job in the meeting.
on	～の上に ～で XX曜日に X月○日に	場所	on the table on TV	I put my bag on the table. I watched the movie on TV last night.
		曜日	on Friday	My father goes to the gym on Friday.
		日付	on December 25	We will have a Christmas party on December 25.
to	～へ ～に向かって	方向 目的とする対象	to Hawaii to my friend.	We will go to Hawaii next month. I gave my bicycle to my younger brother.
for	～の間	時間の間	for eight hours	I work for eight hours a day usually.
	～をしに ～のために	目的	go (out) for lunch for the future	Let's go (out) for lunch. You should study English for the future.
from	～から	場所・人・状況	from the U.S.A. from the lesson	We came from the U.S.A. I learned many things from the lesson.
of	～の	グループの一部	capital city of Japan. Result of the match.	Tokyo is the capital city of Japan. I want to know the result of the match.
with	～と(一緒に) ～によって ～で	～と共に	with my family with a jacket	I went shopping with my family. He left the office with a big suitcase.
		手段	with a screwdriver with a standard way	I tightened the bolt with a spanner. I solved the problem with a standard way.
by	～までに ～そばで(の) ～によって ～で	期限	by 5 pm today by the next meeting	I will finish the work by 5 pm today. I will do it by the next meeting.
		近接	by the door by the sea	I put my bag by the door. They live in the house by the sea.
		方法	by car by myself	I go to the company by car every day. I made the desk by myself.

STEP-2

最後に・・・、前置詞ではない“to”の働きについて説明を加えておきます。

“to”には前述の前置詞の役割と、もう一つ、動詞の原形を伴った“to＋原形動詞”で、『～するために』や『～すること』の意味を持つ役割があります。

この「to＋原形動詞」は“to不定詞”と呼ばれています。特にこの用語を覚える必要はありませんが『～するために』や『～すること』の意味を持つという点は絶対に覚えておいてください。重要なポイントですので例をあげて説明します。

まず、『～するために』の意味を持つ “to＋原形動詞” の例文から・・・

I went to Kobe to watch a movie. (私は神戸に映画を観に行きました。)

この場合、Kobeの前のtoは、Kobeが地名つまり名詞ですから『～へ』の意味の前置詞です。一方、watchの前のtoはwatchが『観る』という意味の動詞ですので前置詞ではなく、watchを伴って“to watch”で『観るために』の意味を持ちます。

会話では、目的を伝える時などに使われます。下に例文を列記しておきますので感覚で覚えてさっと使えるようにしておいてください。

✓ I visited Kyoto to see GION MATSURI. (私は祇園祭りを観に京都を訪れました。)

✓ Many people come to Japan to experience the culture.

(多くの人が文化を体験しに日本を訪れています。)

✓ She is now studying English very hard to pass the test.

(彼女は試験に合格するように今一生懸命、英語を勉強しています。)

次に、『～すること』の意味を持つ “to＋原形動詞” の例文です。

✓ I like to play badminton. (私はバドミントンをすることが好きです。)

この例文では、I like (私は好き) to play badminton (バドミントンをすること) が、という具合です。

✓ I promised to go out with my friend. (私は友人と出掛ける約束をした。)

この例文では、I promised (私は約束した) to go out with my friend (友人と出掛けること) を・・・です。

✓ To study English is very important for me.

(英語を勉強することは私にとってとても大切なことです。)

STEP-2

この例文は『～すること』を主語にした場合の文です。『～することは私の趣味です。』とか『～することが私の今年の目標です。』などと話す時に便利な言い方です。

STEP-2の内容は以上です、いかがでしたか？

ここまでのSTREP-1～2の内容で、受講者の皆様は英文の語順を理解し、現在形、過去形、未来形の単文を使って自分の言いたいことをある程度英語で表現できるはずです。SKYPEレッスンでしっかり練習してください。

<STEP-2は以上です。STEP-3が次のページに続きます。>

STEP-3 助動詞・接続詞

助動詞って何？どんな時に使うの？

まずは助動詞について勉強します。

助動詞とは動詞を助ける言葉で、動詞の意味やニュアンスを変える働きがあります。ここではよく使う助動詞、can, could, may, might, must, should, will, would, shall を取り上げて説明していきます。これらの助動詞は動詞の前に置き、その動詞とセットで「動詞の意味やニュアンスを変える働きをします。例えば、canを動詞の前につけると『～することができる。』の意味に変わります。I speak English. (私は英語をしゃべります。)

は、”I can speak English.” (私は英語をしゃべることができます。) となります。さらに、使用上の絶対的ルールとして、助動詞の直後には必ず原形動詞がきます。例えば、be 動詞を使った文章、He is a good teacher. の場合、この文章の動詞である isの原形は be でしたよね。ですから、He can be a good teacher. (彼はいい先生になることができます。) となります。さらに、Everybody can get the virus. (誰もがそのウィルスに感染する可能性がある。) のように、『～する可能性がある』の意味もあります。

主な助動詞とその意味を下記の表にまとめましたのでご参照ください。

助動詞	意味その1	意味その2
can	～できる	～だろう/～の可能性がある
* could (canの過去形)	～できた	～だろう/～の可能性がある
may	～かもしれない	-
* might (mayの過去形)	～かもしれない	-
must	～しなければならない	～に違いない
should	～すべきです	～のはずです
will	～します (未来)	-
* would (willの過去形)	～でしょう/～だろう	-
shall	～しましょう	-

STEP-3

次に、解説を加えていきます。

★can: canについては冒頭で説明しましたので省略します。そこをご参照ください。

★could: canの過去形

意味その1: 『～することができた』 例えば・・・

- He could catch three beetles. (彼はカブトムシを三匹捕まえることができた。)
- I could become the company president. (私は社長になることができた。)

意味その2: could にはもう一つ重要な意味があります。それは、canの過去形でありながら現在形の文章にも『～だろう』『～の可能性がある』という意味の助動詞として使われるという点です。例えば・・・

- He could come back tomorrow. (彼は明日には帰ってくるだろう)
- It could be fake news. (それはフェイクニュースの可能性はある)

これは can の「意味その2」と同じですが、違いはその可能性にあります。canの方が高く、50%~70%, couldはcanより低く50%をやや下回るくらいです。もちろん、数値に明確な定義はありませんので、なんとなくの感じで覚えておいてください。

★may: 意味は『～かもしれない』 例えば・・・

- He may come late. (彼は遅れて来るかもしれない。)
 - You may be wrong. (あなたは間違っているかもしれない。)
- ※You are wrong. (あなたは間違っている。)

★might: mayの過去形ですが、実際にはmayと同じ意味『～かもしれない』で現在形の文章に使われます。つまりmayと同じだと理解していただいて大丈夫です。

ただし、canとcouldの違いと同様に確度が違います；- mayよりも確度が低い。

★must:

意味その1: 『～しなければならない』 例えば・・・

- I must study English. (私は英語を勉強しなくてはならない。)

意味その2: 『～にちがいない』 例えば・・・

- It must be a UFO. (それはUFOに違いない。)
- ※It is a UFO. (それはUFOだ。)

STEP-3

★should:

意味その1: 『～すべき』 例えば・・・

- You should have a health checkup. (あなたは健康診断を受けるべきです。)

意味その2: 『～のはずです』 例えば・・・

- It should be his jacket. (それは彼のジャケットのはずです。)

★will: will は未来形のところで説明していますのでここでは省略します。

ただし、will = be going to について少し説明しておきます。

I will go to KYOTO this weekend. (私はこの週末、京都に行きます。)

I am going to go to KYOTO this weekend. (私はこの週末、京都に行くつもりです。)

上記2つの文章の日本語訳の違いが示すように will の場合は確実にそうする、あるいは強い意志を表し、be going to は、その予定である時（なのでひょっとすると後で変わるかもしれない・・・）の表現に使います。ですから上司に仕事を頼まれた時は、Yes, I will do it tomorrow. のように will を使いましょう。I am going to do it tomorrow・・・だと、明日やっておくつもりですーとなり、ひょっとすると「つもりじゃなくて絶対な・・・」と念を押されるかも。

★would: willの過去形でありながら、現在形の文章に『～だろう・～したいと思う』など希望や意図のニュアンスを表す助動詞として使われます。例えば・・・

- She would go to Tokyo alone. (彼女は一人で東京に行くだろう。)

※ willより確度が低い

- I would like to go to Disneyland. (私はディズニーランドに行きたいと思っている。)

<“would like to” は “want to” と同意、より丁寧な言い方ですのでこちらがおすすめです>

★shall: 意味は、『～しましょう』 何かを提案する時などに使います。I 又はWeを主語にして疑問文で使うことがよくあります。例えば・・・

- Shall we go for lunch? (一緒にランチに行きましょう)
- Shall I open the window? (窓を開けましょうか?)

ところで、STEP-1の単文作りを思い出してください。基本の現在形に加えて過去形と未来形も一緒に勉強しましたね。この助動詞を伴う文章にも同様に過去形と未来形があります少しレベルが高くなりますのでこのLEVEL-1では通常の会話で比較的良好に使うフレー

STEP-3

ズのみ勉強しておきますので。少し気楽にああいうときにはこう言えばいいのか・・・なるほど・・・程度に理解しておいてください。

過去形について

助動詞を伴う文章の過去形はどの助動詞であっても過去形にする方法は同じです。

助動詞 + have + 過去分詞 で過去形になります。

前述の助動詞の説明で示した例文 “I could become the company president.” を使って実際にやってみましょう。I could become the company president. を過去形にします。この原文の、“could become” 「助動詞+動詞(原形)」を “could have become” 「**助動詞 + have + 過去分詞**」に変更して下記のように完成です。(becomeの過去分詞は become)

I could have become the company president. (私は社長になる事が出来ただろう。)

これは、実際には社長にはなれなかったが、もし～だったらなる事が出来ただろう・・・という意味です。ちなみに、これを英語の仮定法過去完了といいます。日本語での日常会話にはよく使っているフレーズです。例えば、「誘ってくれたら一緒に行けたのに・・・」とか「言ってくれたら手伝ってあげれたのに・・・」を英語で表現する時はこれです。これらを英語で言うと・・・

- I could have gone with you if you told me.
- I could have helped you if you asked me.

(if 以下の文章は『もし・・・なら』の意味でこの場合は過去形で表現します。このifの一般的な使用法については次の「接続詞」で説明します。)

以下にその他例文をいくつか紹介しておきます。

- ★I may have been wrong. (私は間違っていたかもしれない。(50%くらいの確度))
- ★I might have been wrong. (私は間違っていたかもしれない。(30%~40%くらいの確度))
- ★I must have studied English. (私は英語を勉強しなくてはならなかった。)
- ★It must have been a UFO. (それはUFOに違いなかった。)
- ★You should have had a health checkup. (あなたは健康診断を受けるべきだった。)

STEP-3

未来形について

通常の会話で未来形を必要とする助動詞は can と must の 2 つぐらいですので、これを覚えておいてください。未来形の文章は、「will + 原形の動詞」で『～するだろう』『～するつもり』を表現する、と STEP-1 で勉強しました。助動詞を伴う文章の未来形でも will を用います。

★can

例えば、I can speak English. (私は英語を話すことができます。) を、『私は英語を話すことができるようになるだろう』つまり、「将来～出来るようになる」という未来形にするには、単純に考えると "I will can speak English." としたいところですが これは間違いです。will/can は両方とも助動詞ですからこのように二つ並べて使うことはできません。結論から言うと、I will be able to speak English. となります。中学校で "can = be able to" と習った事を覚えていらっしゃるでしょうか？

余談ですが・・・I can speak English. は I am able to speak English. (be を主語に適合する be 動詞 "am" に変更して使用) と言っても間違いではありませんが会話ではほとんど使うことはありません。

話を元に戻します・・・"I will can speak English." のように助動詞 2 つを並べて使うことは間違いですので、can の代わりに be able to を「be をそのままの原形で」使います。なぜそのままの原形で？・・・そうです・・・助動詞の後の動詞は必ず原形動詞・・・でしたね。

★must (～しなければならない)

例えば、I must study English. (私は英語を勉強しなければならない。) を、『私は英語を勉強しなければならないだろう。』つまり、今はそうではないが「将来～しなければならないだろう」という未来形にする方法です。単純に考えると "I will must study English." としたいところですが、この場合も will/must のように 2 つの助動詞が並ぶのは間違いです。結論から言うと I will have to study English. となります。"can = be able to" と同様に、"must = have to" を覚えていらっしゃるでしょうか？ちなみに "have to" は会話でも『～しなければならぬ』の意味でよく使います。

両者には微妙なニュアンスの違いがありますが、ネットで検索するとすぐに違いの説明が出てきますので気になる方は一度調べてみるのも良い勉強になると思います。

接続詞について

次に接続詞について勉強します。

接続詞とは前後の文をつなぐ、接続する言葉で、例えば「そして」「しかし」「それから」「なぜなら」などがあります。

主な接続詞とその使用例

よく使う14個の接続詞を下記の表にまとめましたのでご参照ください。

接続詞	意味	例文
and ～	そして～	My mother went to Kobe and watched a movie. 私の母は神戸に行って映画を見ました。
but ～ however ～	しかし～	I always go to bed at 11pm, but I went to bed at 9pm last night. 私はいつもは11時に寝ますが昨夜は9時に寝ました。
because ～	なぜなら～	She will be caught by police because it was an illegal drug. 彼女は警察に捕まるだろう、なぜならそれは違法薬物だったからだ。
so ～	なので～ だから～	He got up early this morning, so he could catch the train. 彼は今朝早起きしたのでその電車に乗ることができた。
since ～ as ～	～なので ～だから	I will go to a hospital since/as I have a headache. 私は頭が痛いので病院に行きます。
till ～ until ～	～まで	You can stay here until/till I finish my work. 私が仕事を終えるまであなたはここにいていいですよ(いる事ができます)。
or ～	あるいは～ または～	You can go somewhere or stay here. あなたはどこかへ出かけてもいいし、あるいはここにいる事もできます。
though ～ *although ～	～だけれど	I studied English though/although I was so tired. 私はとても疲れていたけれど、英語の勉強をしました。 *althoughは文頭のみを使用・thoughは文頭でも文中でもOK
if ～	もし～ならば	If you come with me, I will give you KIBIDANGO. もしあなたが私について来るならきびだんごをあげましょう。
if ～ whether ～	～かどうか	I don't know if/whether she will come on time. 彼女が時間通りに来るかどうか、私にはわかりません。

STEP-3

※ so と since/as の違いに注意してください。soの場合は、soの後に来る文章が原因に対する結果を表し、sinceとasは、その後に続く文章が原因を表します。例文でご確認ください。

※ if は「もし～ならば」と「～かどうか」の二つの重要な意味を持っていますので要注意です。

STEP-3では助動詞と接続詞について勉強しましたがいかがでしたか？

ここまでのSTEP-1～3で勉強した内容を確認してみます。

STEP-1：語順と現在形・過去形・未来形の単文作り

STEP-2：三単現のS、be動詞、前置詞 の使い方

STEP-3：助動詞、接続詞の使い方

実はこれらの事を理解しているだけで相当な内容を英語で表現する事が出来ます。

例えば下記の状況を想定してみてください。

『この前の日曜日、友人と二人で東京ドームに野球を観に行きました。ところがその友人は私達二人のチケットを家に置き忘れて来てしまったんです。彼は急いで自宅まで取りに帰りましたが、おかげで結局試合の後半しか見れませんでした。試合後、当然、彼のおごりで飯を食べに行きました。』

一目見た段階では、この内容を英語で表現するのはまだ無理かな・・・と思われたかも知りません。しかし出来ます！いえ、出来るはずです！！

この文章を英訳するのではなくこの状況を伝える表現を英語で作るのです。どういう事かわかり辛いと思いますのでやってみましょう。まず、今の自分の英語力で表現できそうなレベルの日本語でこの状況を表現するのです。これが「日本語の段階で下処理をする」という事です。そもそも我々日本人が日本語で考える文章はとてもレベルの高い複雑な表現をたくさん含んでいますし、省略できる内容も多く含まれていますのでそれをシンプルな日本語にする作業です。

私なら下記のような単文6つに下処理してから英語で表現します。

- 1) この前の日曜日、友人と二人で東京ドームに野球を観に行った。
- 2) 彼(男性と仮定)は私達のチケットを家に忘れた。

STEP-3

- 3) 彼は家にチケットを取りに戻った。
- 4) 私たちは試合の後半だけ観る事ができた。
- 5) 試合の後、食事をしに行った。
- 6) 彼が全額支払った。

次に英語で表現していきましょう。

- 1) I went to Tokyo Dome to watch a baseball game with my friend last Sunday.
- 2) He left our two tickets at his home.
- 3) He went back to get the tickets.
- 4) We could watch only half of the game.
- 5) We went for dinner after the game.
- 6) He paid all of the bill.

これらの文章を適当な接続詞でつないで完成です。

I went to Tokyo Dome to watch a baseball game with my friend last Sunday.
However, he left our two tickets at his home. He went back to get the tickets, so we
could watch only half of the game. We went for dinner after the game and he paid
all of the bill.

STEP-1~3で学んだ事とある程度の必要な単語を知っていればこのような文章を作り、会
話する事が可能であることをわかっていただけたと思います。

これはメールの文章ではなく会話ですから、私達はさらに表情やジェスチャーも使う事が
できます。例えば、上記1) ~ 6) の英文で、2) と4) のときは残念そうな表情で、6) の時
はいたずらっぽく笑うなどすれば感情の部分もよく伝わると思います。このように表情や
ジェスチャーも会話能力の一部である事をお忘れなく。

<STE-3は以上です。STEP-4がこの後に続きます。>

STEP-4 否定文・疑問文

否定文の作り方

まず、否定文をつくる方法「3つのタイプ」について説明します。簡単です！

★be動詞の文章：be動詞の次に not入れえるだけ。例えば・・・

- It is very hot today. は It is not very hot today. (今日はそんなに暑くない。)
- There are many books in the room. は There are not many books in the room.
(その部屋にたくさんの本はない。)

★一般動詞 (be動詞以外の動詞) の文章では動詞の前に don'tを置くだけ。

例えば・・・

- You like a dog. の否定文は You don't like a dog. (あなたは犬が好きではないよね。)

ただし、動詞に三単元のSが付いている場合は、don'tではなく doesn'tを置き、一般動詞についていた三単元のSを取り除く。 例えば・・・

- He plays the guitar. は He doesn't play the guitar? (彼はギターを弾きません。)

同様に、動詞が過去形の場合は don'tではなく didn'tを置き、過去形の動詞を原形に戻します。例えば・・・

- They played tennis yesterday. は They didn't play tennis yesterday.

(彼らは昨日、テニスをしませんでした。)

★助動詞を伴う文章は助動詞の次に notを入れ替えるだけ。 例えば・・・

- He can run fast. の否定文は、He can not run fast. (彼は速く走るできません。)
- She would like to go abroad. は、She would not like to go abroad.

(彼女は海外に行きたいとは思っていません。)

- He will come soon. は、He will not come soon. (彼はすぐには来ないでしょう。)

まとめ - 否定文の作り方

- be 動詞：be動詞の次にnotを置く。
- 助動詞：助動詞の次にnotを置く。
- 一般動詞（現在形）：動詞の前にdon'tを置く。

疑問文を作る - その 1

次にClosed Questions (YES/NOで答える質問) について、否定文の説明の時と同様に「3つのタイプ」に分けて説明します。

★be動詞の文章：主語とbe動詞を入れ替えるだけ。 例えば・・・

- He is Mr. Suzuki. の疑問文は、Is he Mr. Suzuki? (彼が鈴木さんですか?)
- It was very hot yesterday. は、Was it very hot yesterday?
(昨日はとても暑かったですか?)
- There are many books in the room. は、Are there many books in the room?
(その部屋にはたくさんの本がありますか?)

★一般動詞 (be動詞以外の動詞) の文章：文頭にDoを置くだけ。 例えば・・・

- You like a dog. の疑問文は、Do you like a dog? (あなたは犬が好きですか?)
- Many Japanese young people like rock music. も同様に、Do many Japanese young people like rock music? (多くの日本の若者はロック音楽が好きですか?)

ただし、一般動詞に三単元のSが付いている場合は、Doではなく Doesを文頭に置き、一般動詞についていた三単元のSを取り除く。 例えば・・・

- He plays the guitar. の疑問文は、Does he play the guitar? (彼はギターを弾きますか?)
- Mr. Yamada often goes to Hawaii は、Does Mr. Yamada often go to Hawaii ?
(山田さんはよくハワイに行きますか?)

動詞が過去形の場合は、Doではなく Did を文頭におき、過去形の動詞を原形に戻します。 例えば・・・

- My mother broke a coffee cup. は、Did my mother break a coffee cup?
(お母さんがコーヒーカップを割ったの?)
- They played tennis yesterday. は、Did they play tennis yesterday?
(彼らは昨日テニスをしましたか?)

★助動詞を伴う文章：主語と助動詞を入れ替えるだけ。 例えば・・・

- He can run fast. の疑問文は、Can he run fast? (彼は速く走ることができますか?)
- I should go to a dentist. は、Should I go to a dentist? (私は歯医者に行くべきですか?)

STEP-4

- She would like to go abroad. は、Would she like to go abroad?

(彼女は海外に行きたいと思っていますか?)

まとめ - 疑問文 (Closed Questions) の作り方

- be 動詞：主語とbe動詞を入れ替える。
- 助動詞：主語と助動詞を入れ替える。
- 一般動詞（現在形）：Doを文頭に・・・

ただし、助動詞の疑問文には下記のように少し特別な意味を持つものがありますので注意して覚えておくようにしましょう。例えば・・・

- can/could: 『～することはできますか？ ～してもいいですか？』など許可を求めたり、頼みごとをする時に使います。例えば・・・
 - Can I use your pen? (あなたのペン使ってもいい?)
 - Can you open the window? (窓を開けてもらっていいですか?)さらに、canをcould に代えると、より丁寧な言い方になります。
 - Could I use your pen? (あなたのペン使ってもいいですか?)
 - Could you open the window? (窓を開けていただいてもいいですか?)
- would: 『～していただけますか？ ～する意志はありますか？』など意図を確認する時に使います。例えば・・・
 - Would you give me this T-shirt? (このTシャツくれるの?)
 - Would you join me for lunch? (私とランチに行きませんか?)
- may: 主語にI (私) を伴って使うと許可を求める時のとても丁寧な言い方『～していいですか？ ・～させていただいていいですか？』になります。

例えば・・・ (ホテルのチェックインの時などに・・・)

 - May I see your passport? (パスポートを拝見してもよろしいですか?)
 - May I have your name? (お名前をいただいてもよろしいでしょうか?)

疑問文を作る - その2

Open Questions (7W1Hを使って聞く質問) を作る

下記の疑問詞 7W1Hは、基本的には文頭に置いて疑問文を作ります。

- Who (だれが) : Who is your English teacher? (あなたの英語の先生は誰ですか?)
- What (何が) : What is his hobby? (彼の趣味は何ですか?)
- When (いつ) : When can you finish the work? (いつその仕事を終える事ができますか?)
- Where (どこで) : Where does Mr. Tanaka live? (田中さんはどこに住んでいるのですか?)
- Why (なぜ) : Why is it wrong? (それはなぜ間違いなのですか?)
- Which (どちら) : Which team does she like? (彼女はどちらのチームが好きですか?)
- Whose (だれの) : Whose bag is this? (これは誰のバッグですか?)
- How (どのように) : How did you learn English? (どうやって英語を勉強したのですか?)

語順さえ理解できれば簡単です！質問文の語順をシンプルに理解するために、7W1Hの疑問文を大きく2つのグループに分類します。一つは「主語が質問の対象になる」場合、もう一つは、「それ以外」の2つのグループです。

まず、「主語が質問の対象になる場合」とはどういう事か説明します。

例えば、『誰が助けてくれたのですか?』という疑問文がそうです。この場合、仮に山田さんという人が助けてくれたとすると、英文はMr. Yamada helped me. -となります。この文章の主語は、Mr. Yamadaです。このように聞きたい物・事・人が主語である場合が「主語が質問の対象になる」場合です。

この時の疑問文はとてもシンプルです。Mr. Yamada helped me. の文章で、仮定の人物、Mr. Yamadaが本当は誰か知りたいので“who”(だれ)に置き換えます。つまり・・・

★Who helped me? …… これで完了です！

このように「主語が質問の対象になる」疑問文は、その語順を正しく理解するために、2つの手順を通して疑問文作りの練習をしていきます。もちろん慣れてきたらこの手順は自然に必要なくなっていくます。

STEP-4

さあ、さっそく練習してみましょう！

簡単な練習問題 - 1) 次は誰が来るのですか？

手順 1 : まず、次は鈴木さんが来ると仮定し文を作ります。Mr. Suzuki will come next.

手順 2 : 鈴木さんを適切な疑問詞、whoに置き換える。Who will come next?

簡単な練習問題 - 2) 路上で何が起こったの？

手順 1 : 交通事故が起こったと仮定して、A car accident happened on the street.

(交通事故= a car accident / 起こる=happen)

手順 2 : ここではwhat(何)が最適ですので、What happened on the street?

いかがでしたか？疑問文の形さえなしていないような感じでシンプルでしたね。

次に、もう一方のグループ『それ以外』について説明します。

「それ以外」とは、質問の対象が主語以外、つまり目的語であつたり場所や時間であつたりする場合です。語順さえ理解できたら作り方は簡単です。

例えば、『あの男性は誰ですか？』を英語で尋ねましょう。

先ほどの「主語が質問の対象になる疑問文」でやってみたように、答えを Mr. Satoと仮定して英文を作ってみます・・・

The man is Mr. Sato. (あの男性は佐藤さんです。) となりますね。次にこれを疑問文にすると・・・ Is the man Mr. Sato? となりますね。

<※ここで疑問文に出来なかった人はSTEP-4 疑問文-その1を復習してください。>

次に、Is the man Mr. Sato? の "Mr. Sato"を適切な疑問視 Who (誰?) に置き換えます。すると Is the man "Who"? になります。しかし『7W1Hは文頭に置く』の絶対基本ルールがありますので文頭に移動させます。すると・・・

Who is the man? (その男性は誰ですか?) - 疑問文の出来上がりです。

早速練習しましょう。

簡単な練習問題 - 3) 彼はその書店で何を買ったのですか？

手順 1 : 雑誌を一冊買ったと仮定 : He bought a magazine at the book store.

手順 2 : 疑問文にする : Did he buy a magazine at the book store ?

手順 3 : 仮定のa magazineをwhatに置き換え : Did he buy "what" at the book store?

手順 4 : 語順を正す : What did he buy at the book store?

STEP-4

簡単な練習問題 - 4) あなたはどこでこの指輪を見つけたのですか？

手順 1 : トイレで見つけたと仮定 : I found the ring in the restroom.

手順 2 : 疑問文にする : Did you find the ring in the restroom?

手順 3 : 仮定の "in the restroom" を where に置換 : Did you find the ring "where" ?

手順 4 : 語順を正す : Where did you find the ring?

簡単な練習問題 - 5) あの女の子は何故泣いているのですか？

手順 1 : 理由を仮定して作文 : That girl is crying because she XXXXXX.

手順 2 : 疑問文に変換 : Is that girl crying because she XXXXXX?

手順 3 : because 以下を why に置換 : Is that girl crying why?

手順 4 : 語順を正す : Why is that girl crying?

簡単な練習問題 - 6) これは誰のペンですか？

手順 1 : 彼女のペンだと仮定 : This is her pen.

手順 2 : 疑問文 : Is this her pen ?

手順 3 : 疑問詞 whose に置換 : Is this "whose" pen?

手順 4 : 語順を正す : (Whose と pen はセットで) Whose pen is this?

同じ手順でいろいろな疑問文にチャレンジしてみましょう！！

さて、練習問題2)~6) をやってみて、もうお気づきかと思いますが、疑問詞が異なる以外は、その後に疑問文形が続くという点で共通しています。つまり、正しい疑問詞を選んで疑問文が作れたら7W1Hの疑問文はクリア出来るということです。

まとめ

7W1Hの疑問文作成法を標準化すると・・・

手順 1 : 知りたい事の答えを勝手に仮定して普通の肯定文を作ってみる。

手順 2 : その肯定文を疑問文にする。

手順 3 : 知りたい事に対する最適な疑問詞を決めて、仮定した答えと入れ替える。

手順 4 : 疑問詞を文頭に移動させて完了！

ただし、主語が質問の対象となる場合は手順 1 と 3 のみで完了！

STEP-4

基本的にこの方法は、過去形・現在形、be動詞か一般動詞、あるいは助動詞が含まれているなど関係なく、すべての種類の文章に適用できます。

最終目標はこのプロセスを介さずに素早く疑問文を作る事ですので、その時が来るまでは練習あるのみです。

相手に何を聞かれているのかわからず会話が進まなかった・・・その経験が軽いトラウマのようになっている・・・そんな経験をお持ちの英会話初級者は少なくありません。

しかし、疑問文が作れるようになると相手の疑問文も聞き取れるようになります。

自分が理解できてしゃべれる言葉しか聞き取れない・・・と思った方がいいでしょう。

7W1Hの疑問文が聞き取れないのはこの質問文が作れないからだと思ってください。作れるようになったら聞き取れます。

英語は基本的に大事な情報から並べていくと言われていきますから最初の部分を聞き逃すと内容は理解できません。特に7W1Hの疑問文は 頭の部分を聞き逃したら質問の意味は理解出来ません。What なのかWhereなのか Howなのか・・・ぼーっとしていて聞き逃してしまうこともありますから、そのときは考えてもしようがないのでさっさとPlease say that again. あるいはCould you say that again? と聞き直しましょう。

<STEP-4は以上です。STEP-5が次のページに続きます。>

STEP-5 現在分詞・過去分詞

現在分詞と過去分詞を使いこなす

ここでは現在分詞と過去分詞の最も一般的な使い方を勉強します。ここで勉強することは、会話の中である程度使えるようになっておくことをお薦めします。

ところでSTEP-2「be動詞」の終盤で動詞の変化形をまとめた部分があったのですが覚えていらっしゃいますか？ 以下のような記述がありましたね。

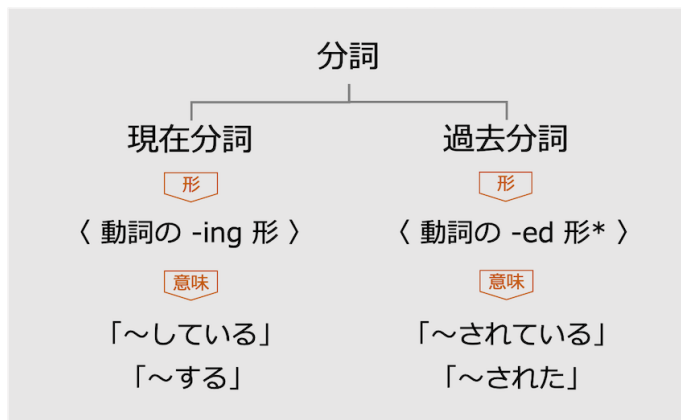
原形	現在形	過去形	*過去分詞	*現在分詞
go	go	went	gone	going
write	write	wrote	written	writing
break	break	broke	broken	breaking
make	make	made	made	making
drive	drive	drove	driven	driving
get	get	got	got/gotten	getting
hit	hit	hit	hit	hitting

STEP-2のBe動詞のところで勉強したように、過去分詞と現在分詞はそれ単体では動詞の役割をしますが、Be動詞とセットで現在進行形の『～しています・していました』や受け身形の『～されています・されました』の意味を表しますがこのSTEP-5ではさらに異なった使い方を勉強します。

この方法が使いこなせたら会話の幅がうんと広がります。英会話の最重要ポイントの一つとして取り組んでください。では、最初に現在分詞、次に過去分詞の使い方について説明します。

STEP-5

まずは下記を参考にして大まかに意味の違いを理解して下さい。



*-ed形以外の変化形もあります

★現在分詞

現在分詞とは動詞(原形)に”ing” を付けたもので主に形容詞 (名詞を説明することば)として使われます。 例えば・・・ I saw a flying bird. (私は一羽の飛んでいる鳥を見ました。) のflyingは、fly (飛ぶ) の現在分詞で、「飛んでいる」という意味を持ち、後に続くbirdを説明しています。これを「**現在分詞の形容詞的用法**」と呼んでいますがこの用法名を覚える必要はありませんのでご参考まで・・・

次に類似の例文を紹介します。

- I saw a smoking man. (私はタバコを吸っている人を見ました。)
- I saw a sleeping baby. (私は眠っている赤ちゃんを見ました。)
- The dancing girl is my daughter. (その踊っている少女は私の娘です。)

さらにもう少し説明を加えたい場合はどうするか見てみましょう。冒頭の例文、

I saw a flying bird. の ”a flying bird” (飛んでいる鳥) に、もう少し説明を加えて『青空を飛んでいる鳥』のような表現にしたい時にはどうするか・・・ それは、

I found a bird flying in the blue sky. となります。名詞を説明する言葉 - “flying in the blue sky” が名詞の直後に移動していますね。このように、名詞を説明する言葉が1ワード以上ある場合は名詞の直後におきます。よく使う表現方法ですので練習しておきましょう。同様に上記の3つの例文も名詞の説明を1ワード以上にすると次のようになります。

- I saw a man smoking on the street. (私は路上でタバコを吸っている人を見ました。)
- I saw a baby sleeping in the bed. (私はベッドで寝ている赤ちゃんを見ました。)
- The girl dancing on the stage is my daughter. (ステージ上で踊っているその少女は私の娘です。)

STEP-5

次に、名詞として使う場合 (動名詞) にも少し触れておきます。

例えば、Playing the piano is my hobby. (ピアノを弾くことは私の趣味です。) のように、Playingは『弾くこと』 - 名詞としての扱いにあります。

以下に類似の例文を紹介します。

- I like watching baseball games. (私は野球観戦が好きです。)
- Studying English is very important. (英語を勉強することは大事なことです。)
- I would like to talk about starting a new business.

(私は新しい事業を始めることについて議論したい。)

★過去分詞

過去分詞とは一般的には「動詞の受け身形」として知られているもので現在分詞と同じように名詞を説明する言葉としてよく使われます。

例えば・・・ I like baked potatoes. (私は焼き芋(焼かれた芋)が好きです。) のbakedは、bake (焼く) の過去分詞で『焼かれた・焼いた』という意味の、名詞を説明する言葉です。これを「過去分詞の形容詞的用法」と呼んでいます。

類似の例文は・・・

- I found a broken window. (私は壊れた窓 (壊された窓) を見つけました。)
- This is the returned book. (これが返却された本です。)

現在分詞の時と同じように、名詞を説明する言葉が1ワード以上ある時の例文を紹介します。冒頭の例文、 I like baked potatoes. の baked potatoes. (焼かれた芋) に、もう少し説明を加えて『母によって焼かれた』のような表現にしたい時にはどうするか・・・それは、 I like potatoes baked by my mother. (私は母が焼いた芋が好きです。) となります。現在分詞の時と同じように名詞を説明する言葉が "baked by my mother" のように1ワード以上になる場合は名詞の直前ではなく、直後にきます。同様に上記の2つの例文も名詞の説明を1ワード以上にすると次のようになります。よく使う表現方法ですので練習しておきましょう。

- I found a window broken by a somebody. (私は誰かに壊された窓を見つけました。)
- This is the book returned yesterday. (これが昨日返却された本です。)

ここまで、現在分詞と過去分詞の使い方を説明してきましたがどうですか？ マスターしておくと英会話にかなり重宝する言葉・方法だと思いませんか？

STEP-5

では、次にどんな場合は現在分詞でどんな場合が過去分詞を使うのか・・・の違いについて説明します。

もうお気づきの方もいらっしゃるのではないかと思います。次の例文を見てください。

- I saw a bird flying in the blue sky.
- I like potatoes baked by my mother.

上段の現在分詞の文中、bird flying in the blue sky (青空を飛んでいる鳥)の bird は自分の意思で飛んでいますね、一方、下段の文中、potatoes baked by my mother (母によって焼かれた芋) の potatoes は焼かれている(受け身形)わけですね。

つまり、説明する対象のもの(名詞)が自ら行動している場合は現在分詞を使用し、受け身の形であるなら過去分詞ということです。

最後に理解度チェックのために問題を用意しました。次の日本語を現在分詞、あるいは過去分詞を使って英文にしてください。必要ならTips(ヒント・秘訣)を参考にしてください。

- 1) 私は、その時、右手から来る車に気づきました。

Tips: 基本の語順に戻って・・・「私は」＋「気付いた」＋「車に」

「右手から来る」を車の説明(形容詞)として付け加える

- 2) 六百年以上も前に建てられたこのお寺は、現在は国宝です(になっています)。

Tips: 基本の語順に戻って・・・「このお寺」＋「です(になっています)」＋「国宝」

「600年以上も前に建てられた」をお寺の説明(形容詞)として付け加える

- 3) これが、友人が薦めている本です。

No tips:

提出していただく必要はありませんが挑戦してくださいね。わからない事がありましたら、HPの「お問い合わせ」のアドレスinfo@d-threshold.comでお尋ねください。

なお、これらの文章は つぎの STEP-6 で学ぶ関係代名詞を使って表現する事もできますので STEP-6 終了後、もう一度関係代名詞を使ってトライしてみてください。

< STEP-5は以上です。STEP-6が次のページに続きます。 >

STEP-6 関係代名詞・現在完了

関係代名詞を理解する

「関係代名詞」・・・なんて言葉を聞くとすごく難しい文法のような気がしますが実際は単純です。3種類の関係代名詞とそれぞれの例文を参考にして少し勉強すれば感覚的に理解できます。必要以上に難しく考えてはいけません。

関係代名詞とは『代名詞＋接続詞』の機能を持つ詞で、二つの文章を、共通する名詞によって接続して、一つの文章にする働きがあります。

その共通の名詞が何であるかによって下記3種類の関係代名詞を使い分けます。

- Which : 共通の名詞が物の場合に使用
- Who/whose : 共通の名詞が人の場合に使用
- That : 共通の名詞が物と人の両方に使用可能

この説明だけではわかりづらいと思いますので例文で説明します。例えば次の二つの英文をご覧ください。

① I have a friend. (私には友達がいます。)

② The friend is a famous singer. (その友人は有名な歌手です。)

この二つの文章を関係代名詞で連結して一つの文にしてみましょう。この二つ文には共通の名詞(下線部分)、“a friend (ある友達)”と“the friend (その友達)”が含まれています。

The friend の代わりに、人に使用可能な関係代名詞 who を使って連結すると、

★ **I have a friend who is a famous singer.** - となり、意味は『私には有名な歌手の友達がいます』です。

何のために関係代名詞が必要かというと、私たちの周りには『私には友達がいて、その友達は有名な歌手です』のように文章を二つに分けて言う時もあるれば『私には有名な歌手の友達がいます』と一つにまとめて場合もあります。このように一つの文章にまとめる表現をするために関係代名詞があるわけです。

STEP-6

もちろん使わなくても何の問題もなく会話できます。これら二つの文を “I have a friend and the friend is a famous singer.” のようにandで繋がればよいのですから。

じゃあ覚えなくていいの？・・・というと、自分は使わなくても周りの人が使いますので、最低限、どういう意味かわかる程度には理解しておいた方がいいでしょう。

では次に関係代名詞の使用方法について、基本的な3つのパターンと例文を紹介します。

■ パターン1：共通の名詞が後に続く文章の主語である場合

<例文1-1>

My mother was talking to a woman. (母はある女性と話していました。)

The woman had beautiful flowers. (その女性は綺麗な花束を抱えていました。)

=> My mother was talking to a woman who had beautiful flowers.

(母は綺麗な花束を抱えた女性と話していました。)

<例文1-2>

I found a stone. (私は石を見つけました。)

The stone was shining. (その石は輝いていました。)

=> I found a stone which was shining. (私は輝いている石を見つけました。)

■ パターン2：共通の名詞が後に続く文章の目的語である場合>

<例文2-1>

I bought a book. (私は本を1冊買いました。)

My friend wrote the book. (私の友人がその本を書きました。)

=> I bought a book (which) my friend wrote.

(私は友人が書いた本を1冊買いました。)

<例文2-2>

The lady was your elder sister. (その女性はあなたのお姉さんでした。)

I met the lady yesterday. (私は昨日その女性に会いました。)

=> The lady (who) I met yesterday was your elder sister.

(私が昨日会った女性はあなたのお姉さんでした。)

STEP-6

- パターン3：共通の名詞が後に続く文章の主語の所有格である場合>

<例文3—1>

I have a friend. (私には友達があります。)

The friend's father is from Hawaii (その友達のお父さんはハワイの出身です。)

=> **I have a friend whose farther is from Hawaii.**

(私にはお父さんがハワイ出身の友達があります。)

<例文3—2>

I saw a boy. (私はある少年を見ました。)

The boy's T-shirt was very cool. (その少年のT-シャツはとてもかっこよかった。)

=> **I saw a boy whose T-shirt was very cool.**

(私はT-シャツがとてもかっこいい少年を見ました。)

ここまで関係代名詞について説明しましたがいかがでしたか？

あまり難しく考えず、例文をたくさん見てとりあえず「感覚的になんとなく意味がわかる」・・・の程度でいいですから覚えましょう。

現在完了を理解する

ここでは現在完了形の文章について、下記の2点のポイントから説明します。

- 1) 現在完了形文章の作り方
- 2) 現在完了形の文章がなぜ必要？

それでは説明していきます。まずは・・・

1) 現在完了形文章の作り方

単純です！ - 動詞を『 Have + 過去分詞 』の置き換えるだけです。

ただし、動詞に“三単現のS”をつけなければいけない時（主語が三人称で単数の時）は、『 Has + 過去分詞 』になります。以下の例文の3つ目がそうですね。

- I have finished the work. (その仕事は終わりました / 終わっています。)
- I have seen her somewhere. (彼女にはどこかで会ったことがある。)
- Mr. Yamada has come today. (本日、山田様がいらっしゃってます。)

STEP-6

次に・・・

2) 現在完了形の文章がなぜ必要？

わかりやすく例をあげて過去形の文章と比較して説明します。

あなたの外出中に、会社取引先の山田さんが訪ねて来られました。そのことを帰社したあなたは次のような言葉で知らされます。

- Mr. Yamada came today. (過去形文章：本日、山田様がいらっしゃいました。)
- Mr. Yamada has come today. (現在完了形文章：本日、山田様がいらっしゃってます。)

上段の過去形の文章の場合、山田さんはもう既に帰ってしまって社内にはいらっしゃいませんよね。一方、下段の現在完了形の文章では、山田さんはまだ社内にとどまってあなたを待っていらっしゃいますね。このように、過去形はただ単に過去に起こった事象を伝えるだけですが、現在完了形は、過去に起こった事象、あるいは状態が現在も継続していることを伝えるときに使います。

例えば、上司から既に月次報告書 (monthly report) を出したか？ - と聞かれた時に提出したのであれば現在完了形の文章で答えるべきです。なぜなら、いつ出したのかを聞かれているのではなく提出したという事実が既に発生したかどうかを伝える必要があるからです。なので・・・

- Yes, I have issued the monthly report. あるいは、 Yes, I have done it.
・・・と現在完了形文章で答えるべきです。

疑問文にするには、『主語とhave/has を入れ替える』だけです。例えば、上記例文の上司の質問、『月次報告書はもう出したのか？』も現在完了形で聞くべきです。

- Have you issued the monthly report?

このように、いつやったのかではなく、既に終了しているのか否かを尋ねる時はこの現在完了形文章で聞きます。

[LEVEL-1 まとめ]

さて、LEVEL-1のレッスンはこのSTEP-6で全て終了です。お疲れ様でした。

振り返ってみますと、STEP-1で英語の語順を学び、過去形と未来形の単文作りを練習しました。そして、STEP-2～STEP3ではbe動詞を伴う文章や、前置詞・接続詞・助動詞の使い方を勉強し、STEP-4では疑問文の作り方を、STEP-5では現在分詞と過去分詞、

STEP-6

STEP-6では関係代名詞と現在完了について学びました。今、LEVEL-1を終了して一番強く言いたいことは、「STEP-1～STEP-6で学んだ事のみでかなりのことを英語で表現することが出来る」という事実です。

例えば・・・

「今朝起きると激しい頭痛を感じました。午後にはもうじき退職する上司にプレゼントを買いに友人と出かけたかったので、午前中は薬を飲んで安静にしました。お昼前には頭痛はよくなったので予定通り出かけました。無事に良いプレゼントを買うことができました。」この状況を英語で表現してみてください。できるはずです・・・

この日本語を英訳するのではなく、この状況をあなたなりの英語で表現してください。

必要な英単語は辞書で見つけていただいてもいいですが、表現方法等はSTEP-1～STEP-6で学んだ事のみで十分出来るはずです。

Tips (ヒント)：私なら下記の英単語を使って表現します。

退職する= retire / 上司= boss / 薬を飲む= take medicine

安静にする= relax / (頭痛)が良くなる= get better / 無事に= successfully

これは、私なりの表現例です・・・もっといい表現例を創造してみてください。

I had a very bad headache when I woke up this morning. I wanted to go out with my friend this afternoon to buy a gift for our boss, who will retire soon. So, I took medicine and relaxed in the morning. Since my headache got better before lunchtime, I went out. We could successfully get the nice gift.

どうですか？良いのが出来そうですか？

ヒントに書き出したくらいの英単語は、いつでも出して使えるように頭の中の引き出しに入れておく事は必須です。語順と語彙力がキーです。

では、次はLEVEL-2でまたお会いしましょう！LEVEL-2ではLEVEL-1で学んだ基本的なスキルを実践すると共に更に新しい知識とスキルを勉強していきます。

<LEVEL-1終了です>